

# 新年度を迎え、 大学から 育友会へのメッセージ



## 育友会の活動に ぜひご参加ください

学長 佐々木重人

ささき しげと 1955年東京都生まれ。78年専修大学商学部卒業。83年専修大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学。同年専修大学商学部助手。専任講師、助教授を経て95年に教授。商学部長（2013～16年）。博士（経営学）神戸大学。税理士試験委員（11～13年度）。日本会計史学会会長（13～16年）。16年より専修大学学長。専攻は会計史。

新緑に包まれた新年度も早一か月が経ち、新入生も日々の大学生活に一定のリズムが生まれてきた頃と思われまふ。ご父母・保護者の皆様には、いつも本学の教育・研究活動にご理解を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。とりわけ本年度から、あらたに育友会員となられました新入生のご父母・保護者の皆様には、ご子弟・ご子女の本学への入学に際しまして、多大なご支援をいただきましたことに対して、厚くお礼を申し上げます。

育友会は、専修大学の学部学生のご父母・保護者の皆様が会員となり、大学での教育や課外活動、各キャンパスでの生活全般に関わる情報を本学と共有し、学生を共に支援する組織です。本学に対する多方面に及ぶ育友会からの支えは、私どもにとって大きな心の支えとなっております。特に、近年頻発している自然災害に被災した世帯の学生や家計急変が生じてしまった世帯の学生に対する経済的支援、そして留学生や体育会所属クラブへの応援活動は、頑張っている学生への温かいエールとなっております。あらためて、心より御礼申し上げます。

本学は現在、新たな教育サービスの創造とキャンパスDX構想に注力しております。教育サービスについては、2026（令和8）年度に予定する全学部一

斉カリキュラム改正に向けた各種の検討及び準備、法科大学院と法学部の連携強化を図る「法曹コース」の設置、大学院文学研究科修士課程への「ジャーナリズム学専攻」の創設、さらにはリカレント教育の充実を図ります。また、キャンパスDXについては、2024年度から本格的に始まる「SiUGローカル・スマートキャンパス」を定着させ、実装化に向けた取り組みを推進していく所存です。

こういった取り組みを継続・発展させていくにあたり、育友会の皆様方のご支援が強力な下支えとなっていることは言うに及びません。引き続き本学の学修環境整備についてご支援を賜れば幸いに存じます。

また、本学では上記のような各種施策のみならず、育友の皆様との緊密なコミュニケーションをより重視してゆきたいとも考えております。育友会が夏期休暇期間中に全国67支部・62会場に分かれて実施する「支部懇談会」にぜひお越しください。本学教職員からお伝えする大学の近況や就職に関するご報告のほか、個別面談を通じてのご相談にも応じております。

今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



# 歴史と伝統を絶やさず 未来へと歩を進める

理事長 松木健一

まつき けんいち 1952年福島県生まれ。73年専修大学法学部卒業。78年専修大学入職。2002年専修大学総合企画広報室長、03年同学長室長、06年学校法人専修大学常務理事、15年同専務理事。学校法人専修大学松戸高等学校理事、同評議会、学校法人玉名学園理事などを歴任。21年より学校法人専修大学理事長。

育友会の皆様には、日頃から厚いご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

昨年からコロナ感染症が落ち着き、従前のように学生たちがキャンパスで活発に活動できるようになりました。制限されていた諸活動を再開させることは苦労がありますが、歴史と伝統のある部活動やサークル活動、意義深い有益な取り組みを絶やしてはなりません。

本年1月1日に発生した能登半島地震で被害に遭われた方々には、お見舞いを申し上げます。本学では、被災された学生の学業継続のためにオール専修で様々な支援を行っております。育友会の皆様におか

れましても支援へのご理解ご協力をお願いいたします。

本学は、21世紀ビジョンに「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」を掲げ、教育研究の環境整備に取り組んでおります。生成 AI の普及など昨今の IT 技術の飛躍的な進展は、社会に様々な影響を与えています。これらに対応できるよう、本学では、全学部でデータサイエンスの知見を深める教育プログラムの充実を図っております。これからも、学生が社会の諸課題の解決に主体的に取り組む人材へと成長できるよう支援を続けて参ります。

育友会の発展と今後とも変わらぬ学生へのご支援を賜りますようお願いいたします。



# 学生の成長を願い オール専修の絆を結束

総長 日高義博

ひだか よしひろ 1948年宮崎県生まれ。70年専修大学法学部卒業。75年明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。同年専修大学法学部専任講師、助教授、84年に教授。88年法学博士。法学部長(2001～04年)、専修大学長(04～13年)、学校法人専修大学理事長(06～21年)、21年より専修大学総長。司法試験審査委員、大学設置学校法人審議会委員等歴任。専攻は刑法学。

コロナ禍で制約されていた大学生活は通常の状態に戻り、キャンパスには活気が満ちてきました。入学式も、日本武道館に一同が集まって挙行することができました。皆様には、日頃から様々なご支援・ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

明治13年に創立された専修大学は、日本の高等教育を担ってきた伝統校です。教育令による専門学校、大学令による旧制大学、そして戦後の新制大学へと移行する過程においては、幾多の難局に遭遇しましたが、建学の精神の下にオール専修が結束し、持続的な発展を遂げてきました。大学は、学生が変

身する場です。学生は、偏差値の呪縛を解き、自己の殻を破って、自分の進むべき道を見出すことで大きく成長します。学生が将来の夢の実現に向けて研鑽し、人間として成長することを、期待しています。

現在、生き残りをかけた大学間競争の時代に突入していますが、専修大学にあっては、大学の総合力において私大10位以内に入ることが目標の一つです。そのためにも、学生・教職員だけでなく、卒業生も育友の皆様も共に力を合わせ、多方面に光を放つことが肝要です。オール専修の絆を結束し、更なる大学力の向上に努めたいと思います。